

宮城県高野連選抜に 角田市から3選手が選出

信濃 更平 選手（角田高）
菅野 結生 選手（柴田高）
佐藤 光洋 選手（柴田高）



↓久しぶりのキャッチボール！印象に残っている選手を聞きました。

夏の大会を振り返って

【信濃】一回戦敗退。初戦の難しさを感じた。コロナ禍で無観客試合が多く最後の大会は有観客で緊張してリズムが作れなかった。

【菅野】初戦が仙台育英で弱い気持ちになった。でも、思い切っただぶつかっていった。負けてしまったが2年半共にした仲間達と戦えて思い出の時間になった。

【佐藤】春季大会は学院榴ヶ岡に初戦負け。夏はみんなで勝つと思っただけ練習してきた。諦めない気持ちで大切に育英相手に追いつくこともできたし、最終回粘ることもできた。

3人にとって高校野球とは

【信濃】小さい頃から高校野球に憧れがあった。高校野球という1つのことに集中できた。辛い時もあったが、両親、チームメイトに支えられて乗り越えられた。感謝。自分にとって高校野球は1つの通過点。終わってしまえば寂しいしもう一度やりたいもの。

【菅野】柴田高校監督の平塚先生から「野球は心でやるもの」と教わった。最後は気持ち強い方が結果を出すもの。高校野球はメンタルが重要だと感じた。

【佐藤】柴田高校野球部では仲間達と「和」を大切にしてきた。辛いことがあったら仲間と頼ったり、頼られたりと助け合った。辛いが、努力の大切さを学んだ。努力することによって思っている以上の成長ができる。それを体感できるのが高校野球。



★印象に残った選手
伊藤選手（東北）



★印象に残った選手
石垣選手（利府）



★印象に残った選手
齋藤陽選手（仙台育英）

スポーツ少年団や中学時代に 取り組んでたこと

【信濃】小学校から父とバッティング練習をした。楽しくやるのが大切で野球を好きになってほしい。まずは楽しくプレーすること。

【菅野】時間を有効活用してほしい。練習+自主練習はしていた。結果出すより野球の楽しさを感じてほしい。笑顔でプレーすること意識して、負けてるときこそ思い切ってやってほしい。

【佐藤】見た目が小さく体格差があった。他の人より飛び抜けたものを作る。自分は走塁と守備範囲。でも、小・中学校時代はまずは楽しむことが大切。楽しくないとその先も見えない。失敗しても落ち込まず挑戦してほしい。失敗は伸びしろになる。



「どこまでも野球」
愛用グラブ：スラッガー



「野球愛」
愛用グラブ：SSK



【信濃】野球の試合は9人で楽しむもの。決して1人ではない。野球を嫌いにならないことも大切。野球人口が減っているのでみんなが角田市の野球を盛り上げてほしい。

【菅野】仲間を思いやることを大切にしたい。1人でやっている子がいれば仲間がカバーして全員でプレーしてほしい。

【佐藤】野球は礼儀などを学ぶことができ、大人になった時に活かせるので未来のあるスポーツだと思う。また、チームの仲間とその先も繋がってくる。信濃君と一緒に野球人口が減っていく。まずは、野球を始めて楽しさに気付いてほしい。

地域の子どもたちへメッセージ

【信濃】「どこまでも野球」
大学でも野球を続ける。これからも野球に食らいついていきたい。将来は野球に携わっていききたい。

※ボールへ記入

【菅野】「野球愛」
幼稚園の頃から続けてきた。大学でも野球を続ける。誰にも負けなくらい野球を愛して楽しさを追求したい。

【佐藤】「人を助ける保健師」
野球をとおして今まで様々な人に助けられたので今度は自分が助けたい。地域の方々に恩返ししていきたい。



「人を助ける保健師」
愛用グラブ：ミズノ



今後の抱負